

# 第1回「兵庫県若者・Z世代応援推進本部会議」

日時:令和6年5月30日(木)14:30~15:00

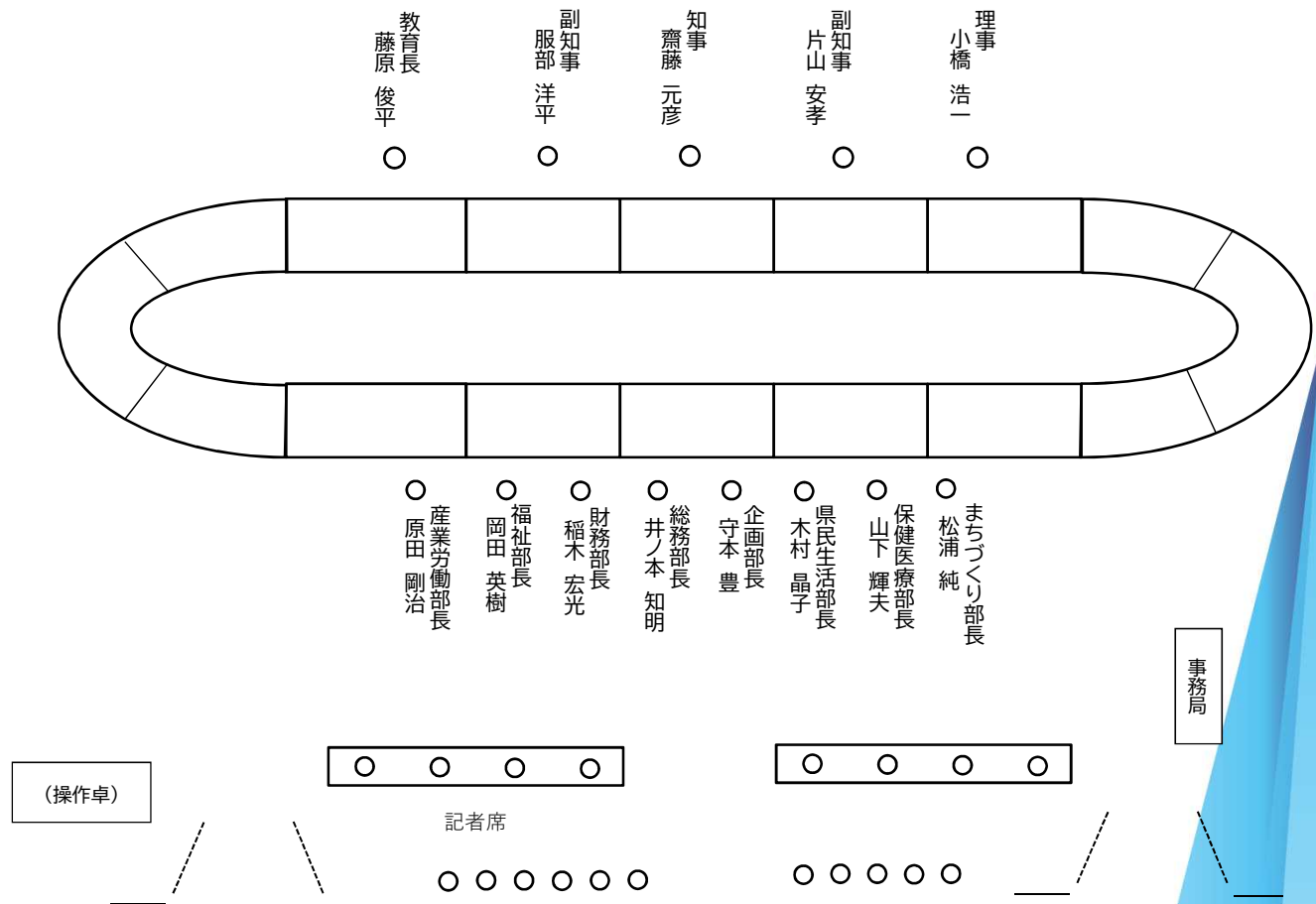
場所:兵庫県庁2号館5階庁議室

## 出席者・配席図

## 【出席者】

所属・職名等	氏名
知事	齋藤 元彦
副知事	片山 安孝
副知事	服部 洋平
理事	小橋 浩一
総務部長	井ノ本 知明
企画部長	守本 豊
財務部長	稲木 宏光
県民生活部長	木村 晶子
福祉部長	岡田 英樹
保健医療部長	山下 輝夫
産業労働部長	原田 剛治
まちづくり部長	松浦 純
教育長	藤原 俊平

## 【配席図】





# 1 若者・Z世代応援推進本部の設置

## 1 趣旨

「若者・Z世代応援パッケージ」の着実な推進に向け、分野横断的に若い世代を直接応援する施策を展開していくため、知事を本部長とする「若者・Z世代応援推進本部」を設置する。

## 2 構成員

【本部長】知事

【副本部長】副知事

【総括本部員】理事（若者・Z世代応援等調整担当）

【本部員】総務部長、企画部長、財務部長、県民生活部長、福祉部長、保健医療部長、産業労働部長、まちづくり部長、教育長

[事務局]企画部計画課

## 3 内容（令和6年度：3回程度開催予定）

- 県民各層や若者・Z世代への施策の浸透
- 各事業の実施状況の共有
- 次年度に向けたパッケージの磨き上げ、充実強化

## 2 R6の主要事業の取り組み

### ◆ 内容

めざす姿	主な取組内容	
<b>学びやすい 兵庫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立大学の授業料等無償化</li> <li>・ 高校生チャレンジ留学応援事業</li> <li>・ 私立高校等の生徒の授業料軽減</li> <li>・ 高校生等の部活動応援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奨学金の返済支援</li> <li>・ ひょうごリーダーハイスクール</li> <li>・ 特別支援学校における通学環境の改善</li> <li>・ 県立学校施設の環境充実 等</li> </ul>
<b>子どもを産み 育てやすい 兵庫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不妊治療支援の強化</li> <li>・ 放課後児童クラブの支援強化</li> <li>・ ヤングケアラーへの支援体制拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひょうご不登校対策支援プロジェクト</li> <li>・ ケアリーダーへの支援の充実</li> <li>等</li> </ul>
<b>住みやすい 兵庫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県営住宅における子育て世帯への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間住宅への入居支援</li> </ul>
<b>働きやすい 兵庫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奨学金返済支援【再掲】</li> <li>・ 理工系人材の獲得促進</li> <li>・ 外国人人材の定着支援 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひょうごミモザ企業認定の推進</li> <li>・ 高校生の県内就職促進</li> </ul>

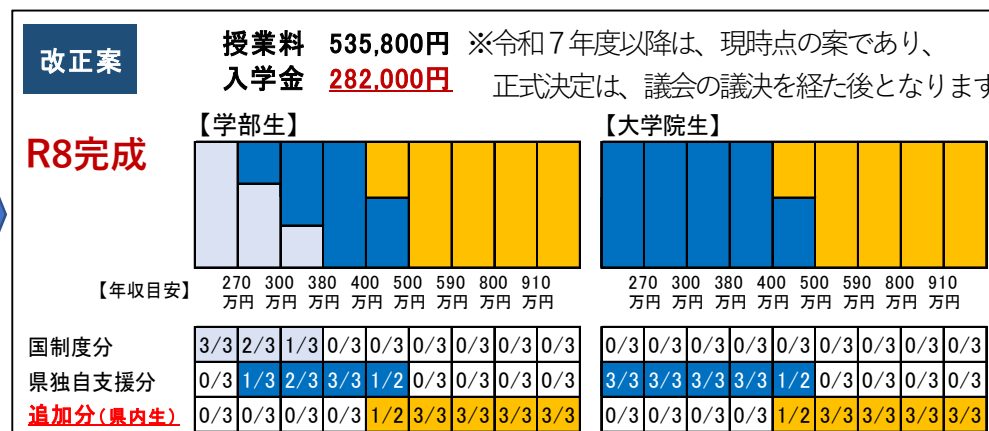
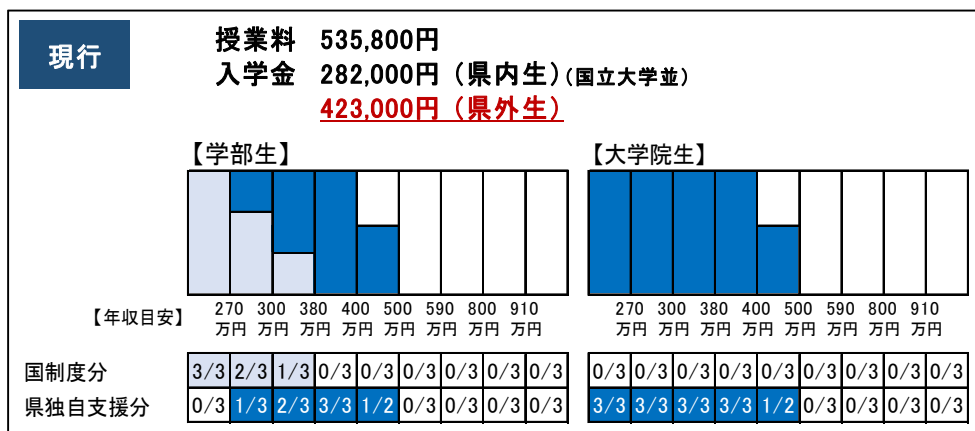




# 県立大学の授業料等無償化

➤ 県が設置している県立大学（兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学）について、  
**県内在住者の入学金及び授業料を学部、大学院ともに所得にかかわらず無償化**

- 県内在住者に対する入学金及び授業料の無償化
- 県外生の入学金の引き下げ（R7以降）



## R 6 志願状況

- 全国的に受験者数が減少する中、R 6 志願者は、対前年度を**269**人上回る**6,562**人  
 （志願者倍率 7.09倍、対前年比 104.3%）
  - 県内割合**48.7**%と、前年度を**2.5**ポイント上回る
- 【主なポイント】
- ・過去5年間の中で最高値を記録
  - ・学部別では、工学部（+183人）及び理学部（+338人）の増加が顕著





# HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト

## ① ひょうごリーダーハイスクールの指定

県内の高等学校における探究活動の充実を図ることで、社会の課題発見・解決に取り組み、最先端の学びにより、グローバルに活躍できる人材育成を目指す「ひょうごリーダーハイスクール」に、**11校**（私立3、県大附属1、県立7）を指定し、5月から事業を開始

### ● 指定校一覧(11校)

指定校	研究テーマ
私立 (3)	①雲雀丘学園 データサイエンスを基盤とした文理融合型探究人材の育成
	②姫路女学院 海外人材育成制度「オフショアスクール※」を活用した日本の将来を担うグローバルリーダーの育成 ※海外の中学校を卒業後、日本型教育を受けて卒業する留学制度
	③育英 海外進学を探究する ー真のグローバルリーダー育成ー
県大 附属 (1)	④県立大附属 中高大連携教育を生かした探究型グローバルリーダー育成カリキュラムの研究開発
県立 (7)	⑤兵庫 グローバルに活躍する「未来の創造者」を育成するための探究カリキュラムの開発
	⑥神戸商業 神戸発未来カケルProject“ミラプロ”～シビック・プライドを持つ人は、地元の資源になる～
	⑦国際 Be a Global Pioneer!～地球課題の解決に先駆者精神と柔軟な発想で挑むグローバルリーダーの育成～
	⑧伊丹北 ミライを創る～伊丹北から世界へ飛び立つグローバルマインドをもつ人材育成プログラム～
	⑨三木 未来社会を共創する5Csを備えたグローバルリーダーの育成
	⑩八鹿 質的な豊かさを追求する未来人（みらいびと）の育成
	⑪洲本 「個別の探究活動」を核とし、教育活動全体の活性化へつながるシステムの構築

### ● スケジュール

月	内容
3月末	公募
4月	選考
5月	指定校決定 事業開始
9月	中間報告会
2月	研究成果発表会

#### <参考>ひょうごリーダーハイスクール

県内の高等学校における探究活動の充実を図ることで、社会の課題発見・解決に取り組み、最先端の学びにより、グローバルに活躍できる人材を育成

○内 容：文理融合型や国際系等の理数教育以外の探究、県内大学等と連携した研究、留学生等ネイティブスピーカーとの文化交流、地域課題発掘・解決方策の提案等

○指定期間：令和6～10年度（最長5年）

○R6予算額：51,000千円





幅広い奨学金返済支援策として全国トップクラス

# 兵庫型奨学金返済支援制度の拡充

これまで実施してきた兵庫型奨学金返済支援制度を、人手不足問題対策会議での意見や企業・学生からのアンケート結果を踏まえ、**企業の人材確保・定着やUJIターンの促進、これから結婚・子育てをする若者・Z世代へのさらなる支援として令和6年度から拡充**

## 1 拡充概要

- ① **対象年齢の緩和**
- ② **補助期間の延長（県で定める認定制度(※)取得企業対象）**

※ひょうご産業SDGs推進宣言・認証制度、ミモザ企業認定制度、ワークライフバランス宣言・認定・表彰制度

	対象年齢	補助期間	補助総額
現行	30歳未満	最大5年間	90万円 (うち県60万円、企業30万円)
<b>拡充後</b>	<b>40歳未満</b>	<b>最大17年間</b> 〔県で定める認定制度取得時〕	<b>306万円</b> (うち県204万円、企業102万円)

奨学金の平均返済期間14.5年、平均借入額約310万円をカバー可能な内容に拡充



## 2 制度内容

### ○支援対象

(企業) 県内に本社のある中小企業等

(従業員) 対象企業に勤務し次の全てを満たす方

- ① 日本学生支援機構の奨学金を受給し返済義務がある
- ② 正社員で**40歳未満**
- ③ 県内事業所に勤務

### ○補助期間

対象者1人につき**最大17年間**  
 ※企業の県認定制度取得状況により期間が異なる。詳細は下表のとおり

### ○補助額

年間返済額の2/3 (上限12万円)

県 2/3

企業 1/3

最大補助期間	補助総額	認定企業
5年	90万円 (うち県60万円)	県内に本社がある中小企業
10年	180万円 (うち県120万円)	<b>SDGs宣言企業</b> <b>ミモザ企業 (新認定区分)</b> <b>ワーク・ライフ・バランス宣言企業</b> (いずれか2つが該当)
17年	306万円 (うち県204万円)	<b>SDGs認証企業</b> <b>ミモザ企業</b> <b>ワーク・ライフ・バランス認定企業</b> <b>ワーク・ライフ・バランス表彰企業</b> (いずれか2つが該当)



# ひょうご不登校対策プロジェクトの拡充

増加する不登校児童生徒への対策として、令和5年度より全県一丸となった「ひょうご不登校対策プロジェクト」を推進している。令和6年度は「学校内の安心できる居場所(校内サポートルーム)」の設置に向けた支援に重点的に取り組む。

## 新 不登校児童生徒支援員の配置

校内サポートルームにおける不登校児童生徒への個に応じた学習や生活の支援等を行う「不登校児童生徒支援員」の配置を支援

[事業スキーム]

県の市町への補助事業

- 配置校
 

中学校:全中学校の各校に1人(252校)	} 計407校
小学校:市町毎に4校に1人(155校)	

〔不登校児童生徒数1校あたり平均人数換算〕  
中学校26人：小学校6人＝4：1

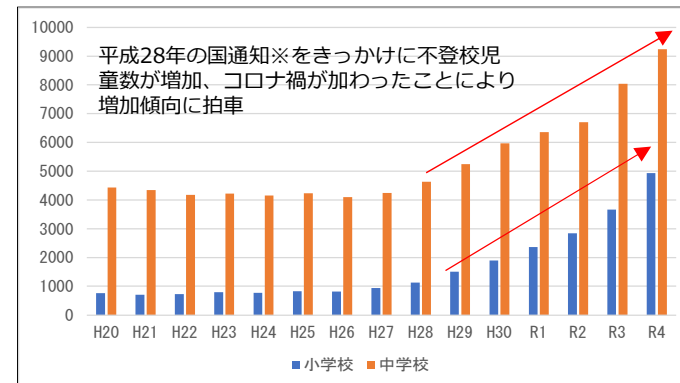
※市町の判断により配置学校を選択

- 配置時間 週20時間[4時間/日×5日間]×35週
- 報酬単価 1,500円/時間
- 負担割合 県：市＝1：1(1/2補助)
- 支援員の想定 地域人材を登用(教員免許不問)

配置校の割合は、令和5年度25.3%から令和6年度50.0%に

※政令指定都市立等除く

【不登校児童生徒数の推移（県内小中学校）】



※不登校児童生徒への支援の在り方について（文科省通知）

【県内不登校児童生徒数等(R4文科省調査)】

区分	1校あたり平均不登校児童生徒数
中学校	26人
小学校	6人
平均	12人

【県内市町組合のサポートルームの設置状況(R5.10月調査)】

サポートルームの設置			指導員等の配置 (市町負担)
全校	一部学校	合計	
小18市町組合 中35市町組合	小21市町組合 中7市町組合	小39市町組合 中42市町組合	26市町組合 [61.9%]
小171校 中152校	小216校 中87校	小387校(68.3%) 中239校(94.8%)	小94校(16.6%) 中113校(44.8%)

※ ( )は全小学校567校、全中学校252校に対する割合

※ [ ]は全42市町組合に対する割合

神戸市除く



# 令和6年度 不登校児童生徒を支援する ハートフレンド人材バンクの学生募集

不登校児童生徒数が過去最多となる中、学校、地域、支援関係機関、教育行政が相互に連携した不登校対策の推進が一層求められている。

そこで、**児童生徒と年齢が近く、教育に関心の高い学生（以下、「ハートフレンド」という）を募集し、市町組合教育委員会が求める人材と結び合わせる人材バンクを創設し、**個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援の充実を図る。

## 1 募集対象

教職、心理、社会福祉等、教育に関わる課程を履修し、不登校児童生徒等への支援に意欲・関心が高い学生（大学・大学院生）

## 2 支援の内容例

- ① 教室やサポートルームにおいて、登校することができた**不登校児童生徒の学習補助**
- ② 教育支援センターにおいて、利用する**児童生徒の活動補助**
- ③ **オンラインを活用し、直接人と対面することに抵抗感がある不登校児童生徒の話し相手・学習支援**

※ハートフレンドに求める児童生徒への支援内容は市町組合教育委員会により異なります。



### 3 申込期間

令和6年3月19日(火)から**右のQRコードより登録**

※別途、県内の教員養成・教育学部がある大学に対しチラシを配布

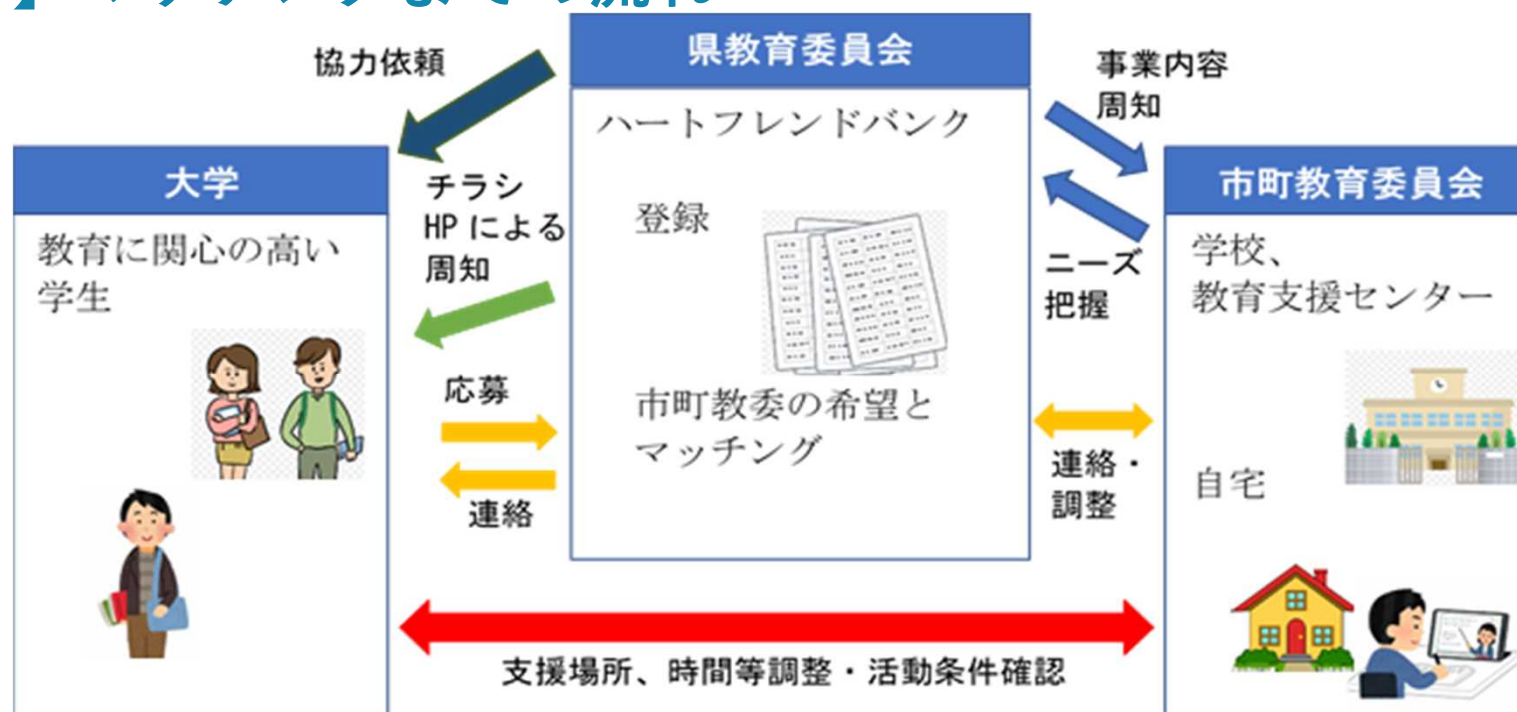


### 4 登録期間

令和7年2月末まで

※登録後、登録者の希望と市町教育委員会が求める活動内容等のマッチングができれば、県教育委員会より連絡。その後の詳細は登録者と市町教育委員会と直接調整。

#### 【参考】 マッチングまでの流れ





# 若者・Z世代応援パッケージ(子どもを産み育てやすい兵庫) 不妊治療支援の強化

予算 総額約 2 億円

## 1 経済的負担の軽減 ①②とも所得制限なし

### ① 保険適用外の先進医療費を助成

対 象	県内医療機関*1で <b>先進医療</b> を受けた者 (43歳未満)
助成額	1回(1クール) *2あたり <b>3万円</b> <b>(回数制限なし)</b> (保険診療) 開始時40歳未満: 通算6回 40歳以上 43歳未満: 3回

### ② 先進医療にかかる通院交通費を助成

対 象	本人(同行者は対象外)
助成額	1回(1クール)の治療にかかった通院交通費の 合計額から5,000円*3を控除した額の1/2以内の額

\*1 西播磨圏域、但馬圏域、淡路圏域は県外医療機関を含む

\*2 1クールは、生殖補助医療開始から胚移植まで

\*3 県内市町から神戸市内までの平均交通費(往復)

いずれもオンライン申請(e-ひょうご) (夏頃受付開始(予定))

## 2 不妊治療と仕事の両立

- ・管理職を含めた企業向けセミナー開催
- ・健康づくりチャレンジ企業向け支援

## 3 プレコンセプションケア推進

- ・高校生等を対象に妊娠・出産を含む健康についての出前講座などを実施

4月1日から募集開始

## 4 普及啓発

- ・SNSやチラシ、ポスターによる情報発信(医療機関、行政機関、学校、企業など)
- ・不妊治療応援サイトの活用(R6.2.1~)

## 5 不妊治療支援特化条例の創設

- ・企業の取組促進や教育現場の理解促進を図るための条例制定

2月上旬を予定

# 1 県営住宅の供給・入居促進：2.8億円

## 子育て世帯向け住宅：3年間で510戸 供給増

・ニーズの高い阪神間を中心に、空き状況を踏まえ、駅や学校等に近接した住宅で実施

(県営住宅の新婚・子育て世帯優先募集の応募倍率：阪神間3.3倍 [全県平均1.9倍 (神戸2.0倍)] )

・高齢化が進む県営住宅において、多様な世代構成によるコミュニティを活性化

### ○入居しやすい県営住宅

#### ●奨学金返済者優先枠の新設 ※全国初

新対象：単身(40歳未満)、夫婦(合計80歳未満等)

#### ●入居要件の緩和

拡子育て世帯・多子世帯等

月収214→259千円以下(県裁量上限)

中学生以下→18歳未満の子

拡若年単身世帯(40歳未満)

月収158→214千円以下(高齢者等並)

#### ●優先入居枠の再拡充

※約2,000戸/年募集のうち割合を設定

H26.4～：25%・500戸/年

R3.8～：30%・600戸/年

拡R6.4～：36%・720戸/年

#### ●入居促進策の拡充

新家賃3か月分の敷金を免除 ※都道府県初

### ○子育てしやすい県営住宅

#### ●子育て世帯向けリノベーション (R6当初予算：240百万円)

【グレードアップ改修】[120戸/年×3年]

新LDK化、システムバス、洗面化粧台の設置等

【サブリース方式】※都道府県初 [50戸/年×3年]

新空き住戸を民間事業者が改修・低廉に提供



LDK化



システムバス

#### ●共用部の重点的改修・整備 (R6当初予算：30百万円)

新団地内の集会所を活用したキッズルーム等の整備[60団地/年]

#### ●子育て世帯向けの住宅供給[県営青木団地]

(R6当初予算：6百万円)

新PFIで子育て世帯向け住宅整備 (R10完成予定)



## 2 民間住宅への入居促進：1.1億円

### ○子育てしやすいモデル地域(住宅地)づくり

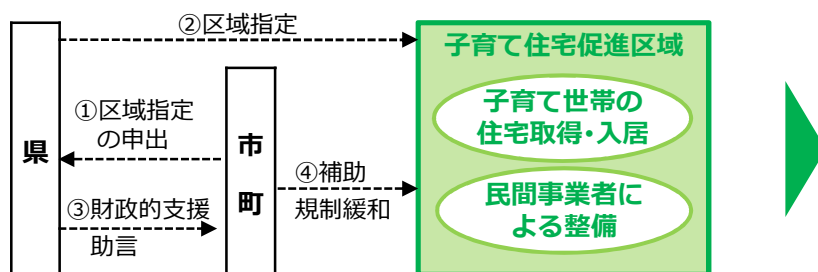
(補助は全て市町随伴 県：市＝1：1)

#### ・阪神間における「子育て住宅促進区域」での重点的支援

(子育て世帯の転入超過数：阪神間1,652人 [全県2,299人])

#### ■「子育て住宅促進区域」の指定

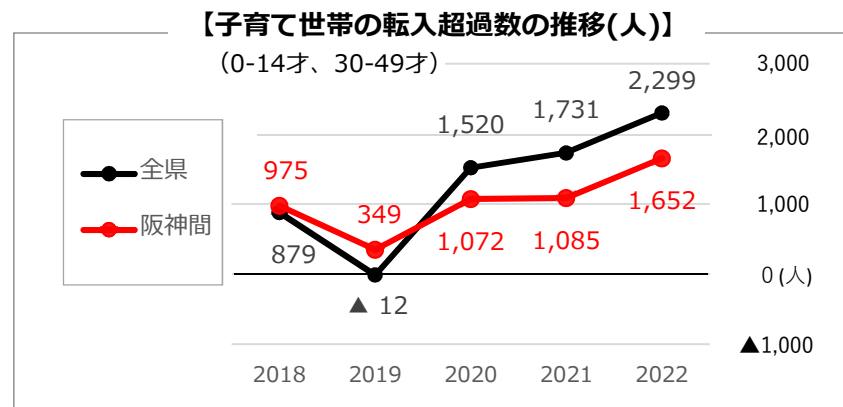
- ・住まいや住環境が充実している又は充実させようとしている地域を促進区域として指定
- ・区域内に県・市町が施策を集中実施することで、民間事業者等の投資意欲を刺激し、子育て世帯の転入・定住を促進
- ・R6は尼崎市をモデルに区域指定を検討、順次拡大



### ○県外からの一層の転入促進

#### ■阪神間への住み替え支援 (R6当初予算：50百万円)

■新県外から民間賃貸住宅への住み替え補助 [最大25万円、400戸/年]



#### ■民間住宅への入居支援 (R6当初予算：58百万円)

■新子育て世帯が暮らしやすい良質な住宅の取得補助

〔新築住宅：最大200万円、50戸/年〕  
〔中古住宅：最大60万円、20戸/年〕

■新戸建住宅を貸し出す家主等への改修補助

[最大60万円、8戸/年]

#### ■子育て支援施設の開設支援 (R6当初予算：6百万円)

■新空きテナントへの子育て支援施設開設費の補助

(改修費・家賃・備品購入費) [300万円/初年度、4件/年]



